



国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第9号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp



本年4月、新潟国際情報大学長として着任いたしました。本学は21世紀に向けて、大学の名称にふさわしく新しい構想で作られた新鮮味溢れる大学です。1学部ではありますが、2つの学科があり、情報文化学科では英語はもちろんのこと、他の外国語も習得し、他国の文化を日本の文化と対比しつつ理解し、情報社会で役立つ人材を作ることであり、情報システム学科では広く国際的に構築された情報システムの理論と実習を習

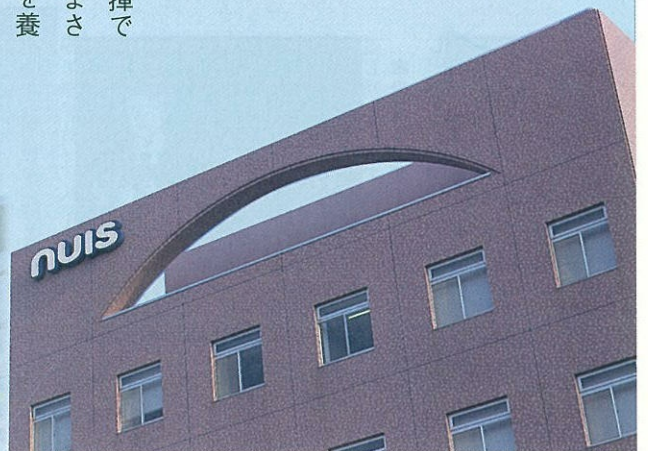
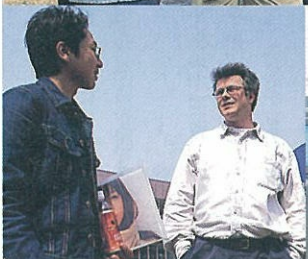
得し、社会人としてその能力を発揮できる人材を作ることあります。まさに現在の社会構造に必須な人物を養成するところであります。学生諸君は真面目で素直で教育の甲斐があります。現在の在学生は約1300名であります。卒業生による同窓会も活躍しています。またこれから大学院を設置したいと考えております。本学への皆さんの一層のご支援をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



ごあいさつ

新潟国際情報大学 学長

武藤 輝一



平成12年度入学式挙行

357人が入学



4月7日(金)午後1時から本学140教室において第6回入学式が挙行された。

新入生357名(情報文化学科139名、情報システム学科218名)、父母、来賓および教職員多数出席のもと武藤輝一学長告辞、小沢辰男理事長祝辞、在学生代表今井誠君(学友会会長)の歓迎の言葉に続いて、新入生を代表して、情報文化学科の森口祐季さんが「わたしの抱負」を述べた。

4月10日(月)にはガイダンスが行われ、その後全員が1泊2日のフレッシュマンキャンプ(於厚生年金スポーツセンター)に参加し、希望に満ちた大学生活のスタートを切った。



告辞

学長
武藤 輝一

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。本日ここに入学式を挙行するにあたり、新潟国際情報大学の学長として、心からお祝い申し上げます。入学は皆さん自身にとっての喜びであると同時に、本日御列席の御父兄にとっても、また多数の前途有為の皆さんを迎えることができる我が大学にとっても大変な喜びであります。

本日、新潟国際情報大学に入学を許可された皆さんは情報文化学科139名、情報システム学科218名、合わせて357名あります。

本学では社会人入学の人もありますが、多くの皆さんは小学校から高等学校までの生活を経て間もない人達であります。これまではどちらかといえば教えられる立場にありました。しかしこれからの本学の学生生活はしっかりと自己を認識することから始まります。『汝自らを知れ』とはデルファイの神殿に掲げられた言葉であります。パスカルは有名な『考える草』の中で、『人間は二本の草に過ぎない。自然の中で最も弱い草にしか過ぎない。しかし考える草である。』と申しております。何事も自分で考え、自分で求め、自分で行動することが必須となります。人にのみ与えられた思考能力を勉学や学生生活の中に生かしてこそ意義があるのではないのでしょうか。勿論、個人としての広い自由と権利を感じ、主張も大きくなりますが、同時に日常の行為に対するアカウンタビリティ、即ち他の人に説明できる責任を持たなければなりません。

現在の大学の始まりは11世紀後半のイタリアのボローニア大学や13世紀初頭のパリイ大学であるといわれています。それぞれウニベルシタスやユニバーシテと呼ばれました。ボローニア大学創設の頃、

ヨーロッパの各地から学生は荷物を背負って、アルプスを越えて集まり、学生は自分達の中から学頭を選びました。そしてコレキウムという組織を作った教師を学生が雇う形であったといいます。即ち学問に対し強い欲求を持った学生自身が大学を作った意気込みを忘れてはならないでしょう。そして今では、どの国でも高等教育は制度化されています。

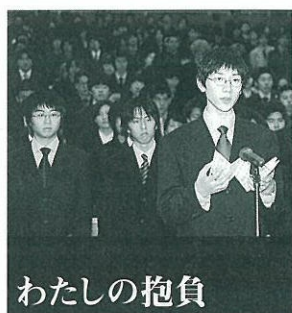
ところで、わが国で第二次世界大戦終了直後改められた高等教育制度も半世紀を経て、改革が必須となりました。平成3年の大学設置基準の大綱化により、大学自身の自由度も大きくなりましたが、責任も大きくなりました。同時に高等教育の大衆化であります。この変革の中で、本学は平成6年春、新しい構想の下で開学しました。従って歴史は新しいが、まさに21世紀を目指しての大学といえましょう。設立の目的は情報化社会の中で国や地域の境を越えて、人類の福祉のため盡すことのできる人物を育成することにあります。とくに情報文化学科では各国、各民族の文化の違いを正しく認識、評価しうる情報判断力を持ち、社会人として、これを行動の中に生かしうる人物を創ることにあり、情報システム学科では国際的に広く構築された情報システムの理論と実際を会得し、これを社会人として生かし役立たせうる人物を創ることにあります。同時に社会の一員として、二人の人間として活躍するに相応しい人間性を備えるために教養教育も重要視しなければなりません。

近年、わが国の経済発展は目覚ましく経済大国と呼ばれた時もありましたが、今やわが国の経済も沈滞の時にあり、『漂流する日本』『政治的情眼をむさぼる日本』などと呼ばれ、国際的に日本の評価は芳しいものではありません。しかし等質性民族のため紛争はありません。ヨーロッパ文明やアジア文明とイスラム文明との衝突も一つの理由となつて21世紀には今以上に民族紛争が増えるものと予想されています。残

念なことです。先達の努力により作られた平和な日本に住めることに感謝しつつ、それぞれの立場で如何にして人類の幸せに貢献することができるか、これからの学生生活の中で考えてほしいと思います。

これからの学生生活の中で、嬉しい事や楽しい事も沢山ありますが、時には悲しい事や失敗する事もあるでしょう。しかし若い皆さんの特徴は『燃える情熱』と『自己との挑戦』であり、何事も無事に乗り越えて確固たる足場を作りうるものと信じております。若く希望に溢れた皆さんを迎えることができたことを心から喜ぶと同時に、21世紀で大いに活躍できる皆さんを羨ましく思い多くの希望を申し上げることにしました。

新潟市は幕末に5大港の一つとして開港された港を持ち、コスモポリタンの気風に満ち、また人情厚きところでもあります。広い越後の平野も、近くの山脈も、広く青い日本海も皆さんを招きかつ囁きかけているようです。皆さんがこの恵まれた土地で勉学に勤しみ、学生生活を謳歌し、心温かく人間味溢れる社会人に成長することを心から期待し告辞と致します。



わたしの抱負

新入生代表
情報文化学科

森口 祐季

本日は私達新入生の為にこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、また心のこもったお言葉をいただきありがとうございます。

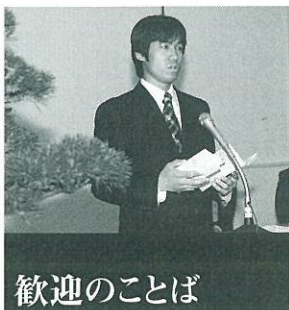
今年2000年という大きな節目を迎えました。そして、翌年には今まで遠い未来の様に感じられた21世紀がやってきます。私達はこの様な大きな節目を本学で迎えられることを光

栄に思います。

20世紀は私達が活躍するには遅すぎた時代でした。ですがこれから来る21世紀はむしろ私達の為の時代になるのではないのでしょうか。

この20世紀で人類は偉大な進歩を遂げました。電化製品であり、ネットワークであり、その他もろもろの進歩です。これらは個人の身の回りから進化していったものだとは思いますが。そして、来たる21世紀に求められるもの、それが個人ではなく、全体、つまり、世界規模・地球規模での国際的な進化なのではないのでしょうか。増えつづける人口に対する食糧問題、無尽蔵ではないエネルギー資源、ますます悪化してゆく環境問題、バブル崩壊による経済不況など、これらへの対応こそが21世紀を担う私達の活躍の場なのではないのでしょうか。ですが、活躍できるべきなのは、私達一人一人の志の持ちようによります。各々が強い志を持ち、社会へ飛び立つ前の礎となる、己の目標・学業の向上・人間形成に励み、21世紀を担う国際人となるべく、本学での4年間の生活が私達にとって意義のあるものになるようしっかりと頑張っていきたいと思えます。

最後に、本学の理念を尊重し、自己のあらゆる可能性を見出し、これからの社会に貢献できるよう務めることを誓い、入学の御挨拶とさせていただきます。



歓迎のことば

在学生代表 学友会会長
情報文化学科

今井 誠

日増しに陽光が心地よく感じられる季節となりました。

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。今、皆さんは新潟国際情報大学という新しい

舞台に立ち「期待」と「不安」が入り交じった緊張感で胸がいっぱいなのではないのでしょうか。私も2年前、皆さんと同じ経験をしたのを覚えています。

さて、大学生活の4年間というのは、これまでの学生生活を通して様々な「出会い」を経験できる最高の場です。新しい環境での教職員との「出会い」や、新しい友人との「出会い」は勿論、なにより学外における一般の人々との「出会い」の機会がより多く得られることでしょう。

皆さんには、様々なことに興味を持ち、様々なことに挑戦し、様々なことを経験して欲しいと思います。特にそれらの過程における様々な「出会い」を大事にして欲しいということです。それらの「出会い」や経験はこれからの社会生活において必ず自分自身の力となり、役に立つてくれるはずです。

また大学生活を通じて、自ら考え、自らが行動を起こしていく自立的で且つ、積極的な学生になってください。ただダラダラと何となく毎日を過ごすのではなく、しっかりとした目的意識を持ち、大学生としての自覚を持つことで有意義な大学生活を過ごして欲しいのです。

最後になりますが、勉学に勤しみ、新しい友人を作り、クラブ・サークル活動に励み、その他の様々な分野に挑戦して、様々な「出会い」を経験してください。それにより、充実した大学生活を送り、それを謳歌してください。

皆さんが多くの「出会い」を通じて活躍することを期待しています。

本日は御入学おめでとうございます。



社会への門出を祝して

卒業式挙行



3月22日(水)午後1時より、平成11年度卒業式が、新潟芸術文化会館で行われた。今年は新たにオープンした通称「リ्यूとびあ」での卒業式となり、多数の父兄が列席する中、厳粛かつ華やかに式が挙行された。

第3回卒業生として情報文化学科125名、情報システム学科175名、合計300名が卒業し社会に巣立っていった。

式典は、学位記授与で始まり、卒業生全員の氏名が呼び上げられ、各学科総代が小沢辰男学長から学位記を受け取った。学長は、卒業生に対しはなむけの言葉を贈って卒業を祝った。長谷川義明新潟市市長の祝辞が代読され、学生表彰に続いて、情報システム学科の小黒悠紀子さんが卒業生代表として答辞を述べて式典を終えた。

午後6時から、ホテルイタリア軒において、学生主催の卒業記念パーティーが開かれ、和やかな雰囲気の中で社会への門出を祝した。



答辞

第3回 卒業生代表
情報文化学科 情報文化学科

小黒 悠起子



本日は、私達卒業生のために、来賓の皆様を迎え、理事長、学長先生始め、諸先生の御列席を賜り、かくも盛大な卒業式を挙げていただき、お礼申し上げます。

今から4年前、設立して間もないこの大学に、第3期生として入学し、本日、私を含め300名が、めでたくこの日を迎えることができました。

振り返れば、この4年間に、大学が大きく変化を遂げたという印象があります。大学周辺は、のどかな田園風景から住宅街が建ち並ぶ風景へと変わり、またコンピュータも最新のものに入れ替わるなど、校舎の環境設備も、より学生が利用しやすい状況へと変わりました。さらに両学科のカリキュラムも、この4年間で大幅に改正され、より国際化・情報化時代に対応した内容に変わりつつあります。

正直に申し上げますと、入学した当初は設立して間もない新しい大学での学生生活や、将来の就職活動において、不安や戸惑いがありました。そのため試行錯誤の繰り返しでしたが、その分、他の大学では得られなかったことを学ぶことができ、得るものも多かったと思います。

私はコリア語を専攻していましたが、私の好きな韓国の諺に「シジャギ バニダ」、「始まりが半分だ」という言葉があります。「物事は始めさえすれば、半分は成就したも同じだ」という意味です。考え方が甘いと言われればそれまでですが、チャレンジすることによって、時には実力以上の力を発揮できるということを学びました。

私にとってこの4年間は、まさに社会人になるための貴重な準備期間でした。この4年間で得た知識や経験は、生涯の財産となることでしょう。

この日を境に、私達は別々の道を歩むことになり、社会に出ると幾多の苦難にぶつかると思いますが、これから本気の勉強が始まるのです。

今日まで、ご指導くださった諸先生方や、支援してくださった多くの方々の御厚恩に対し、感謝の言葉もありません。今後進学する者も、社会へ出て働く者も、この点を忘れず、新潟国際情報大学の卒業生として誇りを持ち、歩み続ける決意です。この4年間で得たものを、地域社会の発展に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

最後になりましたが、新潟国際情報大学が環日本海地域の拠点となり、新たな国際交流の場となりますことを祈念いたしまして、私の答辞といたします。

卒業式で学生表彰

3月22日の卒業式に合わせて、4年間に顕著な活動をした学生の表彰が行われた。

理事長賞

情報システム学科 阿部 宏正

(県内高校の情報教育の向上に貢献、本学の名声を高めると共に、難関のネットワークスペシャリスト試験に合格)

学長賞(総代)

情報文化学科 小黒悠起子

情報文化学科 三富 勇樹

情報システム学科 酒井 寛子

情報システム学科 高橋 広子

(学業成績優秀)

課外活動賞

情報システム学科 和田周太郎

(北日本学生陸上競技対校選手権大会において走り幅跳び3位入賞)

情報システム学科

国際交流賞

情報文化学科 荒木麻衣子

(AFS役員として、各国留学生との交流ボランティア活動に貢献)

学術賞

情報システム学科 酒井 寛子

情報システム学科 山口 潤

(新潟市産業活性化学生会議において第2位優秀賞を受賞)

異文化への扉がまたひとつ

北京師範大学と 交流協定締結

異文化に対する理解を深め、真の国際人を育成するため、本学は各国の大学との提携・交流を進めています。開学7年目のこの度、中国の北京師範大学歴史学部と交流協定を結び、相互の交流をより深めていくことになりました。

両校の調印式は本学で行われ、武藤学長が「大学の国際化が進み、日中の友好促進に役立つ」とあいさつ。調印書には榎木公二・情報文化学部長と鄭師渠(ティ・シキヨ)北京師範大学副学長が署名し、固い握手が交わされました。鄭副学長は「異文化交流は21世紀の教育の新しい方向。良い成果をもたらすと信じている」と協定締結に対する期待を述べました。

今後の予定として、まず情報文化学科の2年生以上の学生約30名が、5ヶ月間、北京師範大に留学。留学先での取得単位は相互交換できるため、卒業のための単位に含まれます。また、今後は学生と研究者の相互交流、学術論文の交換など、教育と学術の発展に向け様々な共同事業を行っていきます。

本学では今後、ロシアの極東国立総合大学のほか、アメリカ、韓国の大学とも交流協定を結び、学生の選択肢を広げていく予定です。



(国際交流委員会 小澤 治子 記)

高校図書館部会 開催

平成12年度の新潟県高等学校教育研究会図書館部会の総会と研究会が6月23日(金)に新潟国際情報大学を会場として開催されました。午前中は「朝の読書を実践して『進路学習を含めて』」と題した研究発表が行われました。午後からは、「情報収集のための情報検索」と題した講演が、本学の高木義和教授により行われました。2003年から始まる新しい高等学校学習指導要領では情報という教科が新設されるため、今から情報の勉強を始めたという参加者の強い熱意が感じられました。



充実のキャンパスをこの目で

オープンキャンパス開催のお知らせ

新潟国際情報大学では今年もオープンキャンパスを開催します。参加希望の方は、高校の進路担当の先生を通じて申し込むか、左記の連絡先まで直接お申し込み下さい。

【日時】7月22日(土) 11:00~16:20/受付10:30~11:00
【対象】受験生・父母
【内容】入試情報と解説・個別相談・模擬講義/
CG・インターネット体験/学生生活Q&A
【交通】JR越後線越後赤塚駅下車 徒歩7分(駐車場有り)
【申し込み・問い合わせ】 新潟国際情報大学教務課
TEL025-239-3251 FAX025-239-3690
E-mail:kyomu@nuis.ac.jp

各委員会 からの お知らせ

学生部より

平成12年度の日本育英会奨学金には、総計66

名の応募者があり、書類審査、面接の結果、1種(無利子)に14名(うち1名は2年生以上)、2種(有利子)には42名(うち10名は2年生以上)が学内候補に決定し、育英会に対する申請手続を完了しました。

平成12年度、学生部委員は左記の通り決定しましたので、よろしく願います。

原口武彦(部長、大山毅(副部長、區建英(卒業アルバムなど担当、塚田真二(紅翔祭など担当、小宮山智志(会計担当)

情報センターより

情報閲覧室(1階)では、卒業研究や課題に必要な資料検索の相談に応じております。以下の要領で実施しておりますので、ご希望の方は貸出しカウンターにおいでください。

日時 月曜日~金曜日 午前9時~午後5時半(12~13時を除く)

データベース雑誌記事検索、ジャーナルインデックス、Book Plus、朝日新聞全文記事データベース、日経新聞4紙DVD-ROM、冊子体の資料

学内外の文献申し込み方法や近隣の大学図書館、公立図書館の資料の利用方法などもご案内いたします。

コンピュータ室(2、3階)ではマルチメディア実習室のパソコン、周辺機器の更新を行うとともに、UNIXマシンの最新のものになりました。機器はよくなりましたが、ネットワーク特にインターネットでは大変ご迷惑をかけています。回線の契約が9月で切れますので、それを機に高速化する予定です。

委員会の お知らせ

国際交流委員会より

今日からあなたも国際人！新潟国際情報大学では、異文化に直接触れて国際

感覚を養い、大学での勉強の成果を確かめさらに充実した学生生活を送ることができるよう、留学制度を整えています。

情報文化学科では、希望学生を対象に留学を2年後期のカリキュラムの中に組み入れ、5ヶ月(アメリカは6週間)留学して4年間で卒業できる「派遣留学制度」を設けました。アメリカ、中国、韓国、ロシアなどで一定期間生活しながら学ぶことによって、聞き、話し、読み、書くという言葉の能力を高め、異文化に対する理解を深めることができます。

情報システム学科では、カナダやアメリカの大学で主として2年次生を対象に4週間にわたる「海外夏期セミナー」を実施します。このセミナーでは、コミュニケーションをとるための英語研修や情報システムの最先端に触れる企業訪問、さらにはホームステイなどが体験できます。

本年度は8月21日より4週間、20名の学生がカナダのアルバータ大学で研修に参加し、また9月19日より約5ヶ月31名の学生が北京師範大学に留学します。人々との交流を通じて味わうぬくもり。歴史と伝統を感じさせる名所旧跡。世界の最先端を行く企業。日本の生活では得られない貴重な体験があなたを待っています。

国際交流委員会は、あなたが国際人として世界に羽ばたくことをお手伝いします。

学位取得について

小澤治子教授が5月慶応大学から法学博士学位を授与されました。慶事なので、ここで皆さんに紹介させていただきます。

市民のための公開講座

「映画のなかの市民社会」

昨年、多くの市民の皆さんに参加いただき、好評を博した市民のための公開講座が、今年も6月3日(土)30日にわたって開催されました。

テーマは去年に引き続き、「映画のなかの市民社会」。昨年同様、新潟市内の映画館シネ・ウインドにおいて本学指定の映画を4作品上映。それぞれの作品に関して、本学教員が講師となつて講演・討論を行いました。

今年度はさらに深く市民社会を考えるとという目的で、昨年とは視点を変え、全てドキュメンタリー作品で構成されました。メイン上映の「スベヤリスト・自覚なき殺戮者」はイスラエルで行われたナチス幹部アイヒマンの裁判の記録映画。どこにでもいる平凡な人間であるアイヒマンが、どうしてあれほど残酷な行いを実行できたのか。平和学を専門にする佐々木寛先生が、戦争責任と市民社会、集団の責任と個人の責任などについて講演しました。

その他「金日成のパレード」「ゲット・オン・ザ・バス」「ゆきゆきて、神軍」の3作品を上映。いずれも多くの論争を引き起こした問題作で、劇映画とは違ったスリル、感動とともに、市民社会について普遍的な問題を考えさせるものでした。「市民社会」という難しいテーマに関わらず、今年も多くの方々が受講。どの作品でも、講師と受講生の間で活発な議論がなされ、私達の市民社会について考え直す良ききっかけとなりました。

(地域交流委員会
稲宮 健一記)



市民のための公開講座

「健康体力づくりの フィットネストレーニング」



健康で豊かな一生を過ごすには、筋力、持久力、柔軟性などの要素が必要です。それらを健全に維持するためには、理論と実践に基づいた正しい運動トレーニングが最も効果的です。健康体力づくり、身体づくりのための運動トレーニングのことをフィットネスといい、本学では体育授業において、従来の「体育実技」とは異なる、健康体力作りを重点を置いたフィットネス教育を実践しています。

今回、6月3日、6月17日、7月1日の3回にわたって本学体育館において市民公開講座を開催し、本学の体育授業で行っている内容の一部を市民の皆さんに紹介しました。1回目は「筋肉づくりのためのトレーニング」、2回目は「体脂肪燃焼のためのトレーニング」、3回目は「プロポーションづくりのためのトレーニング」というテーマでした。体脂肪率や体力と健康の関連性、フィットネス理論や運動と健康の関連性などについて講義を行いました。また、実際にマシンを使ったトレーニングを体験する時間も設け、正しく効果的な運動法を指導しました。

近年における基礎体力の低下、肥満や成人病の増加、高齢化社会、健康情報の氾濫。こ

のように健康に対する関心が強まっているなかでのこの市民公開講座は、多くの参加希望があり、残念ながら全ての人が参加できるといいうわけにはいきませんでした。しかし実際に参加した皆さんは興味深く講義に聴き入り、充実した公開講座となりました。

(藤瀬 武彦記)

教員の 動 活

市川照久教授
テーマ「流通革命
と期待される人材」
で講演

昨年10月に、弥彦において日本貨物主催の講演会で講演し、今年の4月にいわき市においていわき商工会議所主催の講演会で講演しました。テーマは「流通革命と期待される人材」です。

情報処理学会の活動

情報処理学会の情報処理教育委員会の委員をしています。現在、情報システム教育分科会のメンバーとして、情報システム学のモデルカリキュラムを検討しています。私の担当は、「情報システム学科の卒業生に期待される能力」を明確にすることです。

教員の 出版物

柳永益著 秋月望・
広瀬貞三訳
『日清戦争期の韓国
改革運動―甲午更張
研究』

(法政大学出版局、2000年)
1894～196年の韓国における近代化運動である「甲午更張」に関する本格的な研究書。開化派官僚の改革構想などから、「甲午更張」が自立的な改革運動であったことを実証する。本書は「韓国の学術と文化」シリーズの第3冊目である。

新任教員紹介

情報文化学科

講師



安藤 潤

担当科目:現代の経済(経済と社会)、国際経済学、教養演習、情報文化研究1・2
専門分野:防衛経済学、主に防衛支出の経済成長に対する影響を理論的・実証的に分析しています。

経歴:1992年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、1994年早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了、2000年早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得修了、1996(1997年敬愛大学経済学部非常勤講師(経済政策総論・外国語購読担当)、1997年より財団法人国際通信経済研究所嘱託研究員、1998年より昭和大学教養部及び昭和大学医療短期大学非常勤講師(経済学担当)

防衛経済学が私の専門分野ですが、最新は情報通信、特にIT(情報技術)と経済の関係や、医療を中心とした社会保障に関心を持っています。国際通信経済研究所では日本を中心に先進国の情報通信政策などの研究に関わっています。本学の特色を考え、講義ではそのようなホットな話題も話したいと思っています。

情報文化学科

講師



佐々木 寛

担当科目:平和学・NGO論・国際組織論など
専門分野:戦争・環境破壊・貧富の格差などの国境を越えた「地球的問題群」とそれに取り組み国際組織や社会運動について研究

経歴:1996年中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了、1996年、1998年立教大学法学部助手、1998年、2000年日本学術振興会特別研究員

平和学という新しい学問分野の構築に取り組んでいます。平和学とは、暴力が構造化された現代

社会で、「無力」なふたりの人間たちがすこしでも望ましい世界をつくるために何ができるのかを考えるための学問です。みずみずしい感性をもった学生諸君といっしょに、新しい学問をつくってゆけることを期待しています。

情報文化学科

助教授



グレゴリー・ハドリー

担当科目:Communicative English Program(CUE)、情報文化研究

専門分野:Personal Construct Repertory Gridsによる社会的、教育的価値観の異文化間リサーチ、Personal Construct Repertory Gridsとは、被験者が研究者から妨げを受けることなく、特定の事項について自分の考えや意見を表現することを可能にするリサーチ・ツールである。
ユダヤ教とキリスト教の信仰と倫理が西洋文化の形成に及ぼした影響。日本の大学における効果的な英語カリキュラムの開発。
学歴・職歴:1987年・Northwest Missouri State University, USA T/Trin/ケン・専攻・スペイン語副専攻卒業、1992年・Midwestern Baptist Theological Seminary, USA 神学専攻修士課程修了(Master of Divinity)1997年・University of Birmingham, UK 応用言語学専攻修士課程修了(Master of Arts, TEFLTES)1997〜2000年長岡工業高等専門学校外国人教師

もうすぐ21世紀。今、日本が必要としているのは、物事を分析する思考力、情熱と自制心を持つて問題を解決できる人物です。日本が経済大国として生き残るためには、既存の大学では得ることのできない、より良い言語スキルを求められています。

CAP(Communicative English Program)とは、論理的にまた国際的視野をもった物事を考え、いくつを学生たちに伝えていきます。学生たちは、新潟では今までなかったこの特別なカリキュラムによって質の高い教育を受けることができます。CEPに参加する学生たちは積極的に授業に参加すること、自制心を持って学習に取り組んでいくこと、そして若く刺激的な語学教育のエキスポーとたちと交流していくことが求められています。

Come and be part of the future. Come to Niigata University of International and Information Studies (ともに未来を築くべく、来たれ新潟国際情報大学)

情報文化学科

教授

アレクサンドル・プラインル

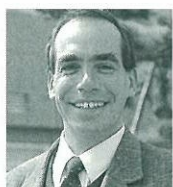


担当科目:ロシア文化論、ロシア史概説
ロシア語、ロシア語、ロシア語文化研究
情報文化研究
専門分野:ロシア文化、比較文化

25年前に旧ソビエト(現在のロシア)の大学を出ています。卒業後モスクワ大学大学院で日本研究を継続しました。大学院を終了し、日本海の港町ウラジオストクの極東大学東洋学部で教員の職につきました。1991年から新潟大学に助教として採用され、教養部、人文学部で勤めていました。2000年から新潟国際情報大学でロシア語、ロシア文化関係の講義やゼミを担当しています。外国語を通じて、学生たちに日本と全く別世界の文化に接触してもらいたいと思っています。長年にわたって異文化コミュニケーションに直接関係ある仕事に携わっていますが、身に付けるべき新しい知識のきりがなさそうで、教えるながら教わるという形で生徒とともに勉強を続けています。

情報文化学科

インストラクター
ディビッド・ジェフリー



担当科目:Communicative English Program(CUE)
研究分野:文化と理想的な英会話の関連に関する研究・教室における特定の問題群の解決のための実証研究
学歴・職歴:1989年「開発研究」修士号(南アフリカ・ネイタル大学)1990、1992年 英語教師(新潟)
1993〜2000年 社会経済調査研究員(南アフリカ)

地球規模での経済の大変動によって、国境を超えた人々による深い理解が必要となった。未来のために意味のある相互作用が求められている。CEPの目的は国際的なコミュニケーションのための英語教育である。その授業において学生に要求されているのは確実なコミュニケーションである。その習得によつて学生は自分自身の考え方や知識、経験、他の国籍や文化に属する人々に伝えることが可能となる。それは日本の文化大使となることでもある。

情報文化学科

インストラクター
マシュー・マッシュュー・ワウウィック



担当科目:Communicative English Program(CUE)1-8
研究分野:語学教育課程におけるコンピュータ・テクノロジーとの統合方法の研究

技術的な枠内における教材の企画・評価
学歴・職歴:1988年 Paedagogische Akademie, Austria ドイツ語学科
1989年 Southern Illinois University, USA ドイツ語専攻、経済学副専攻
1992 Southern Illinois University, USA 応用言語学、専門分野は音韻論 (Master of Arts, Applied Linguistics)
1999-2000 ニュータラ州立大学秋田校専任講師

新世紀の国際的経済社会において、国際英語はきわめて重要な道具です。

さらに、国際英語は情報交換の手段、そして異なる国々や文化への導管ともなりうるものです。CEPの使命は、学生達が生産的な人間に、そして21世紀の国際人になれるよう彼らの英語力上達をはかることです。
ここ新潟国際情報大学で、世界のために新しい未来を築き上げましょう。

情報システム学科

講師



小宮山 智志

担当科目:生産企画と管理、情報処理演習1・2、情報システム演習
専門分野:社会学。主に統計的な社会調査によって得られたデータを分析し、人々の意識と制度・慣習・階層の関わりについて研究しております。

経歴:1994年中央大学文学部社会学科卒業、1996年中央大学大学院文学研究科社会学専攻修士前期課程修了、1999年中央大学大学院文学研究科社会学専攻修士後期課程中退、1999年中央大学文学部社会学科非常勤講師、2000年新潟国際情報大学情報文化学部専任講師

私は社会学を専攻しておりますが、残念ながらここに限り限られた「社会」にしか属してきません

でした。このような私にとって、多様なご経験と専門の方々が集まる本学の一員になったことは、大変なチャンスだと考えております。この素晴らしい環境で新しい情報を作り出そうと試行錯誤することの「楽しさ」を、学生の皆さんにお伝えできるよう研究・教育に邁進する所存です。よろしくお願ひ致します。

教員の昇格人事

(平成12年4月1日)

助教授 白井陽二郎 情報文化学科

就職活動について

就職指導委員長

永井 武

平成12年3月卒業の第3期生の就職率は83%でした。決してよい数字ではなく、教職員、学生諸氏共々反省し、来年のよい就職率につなげなければなりません。

企業の採用する姿勢は、学生を年々厳しく選別する方向にあり、即戦力になる能力を持つ人、今は即戦力になる能力はないが、のびのびとして、企業側からみて将来有望と判断された人以外は採用しなくなっています。特に、従業員千人以上の大企業はその傾向が強く、企業が求める即戦力を教員、学生が認識する必要があります。

このような企業側の厳しい姿勢に果敢に立ち向かう学生が大部分ではありますが、はじめから就職活動をあきらめる学生が20%いることも確かです。

本学の就職率を高めるためには、この20%の学生を教職員で叱咤激励すること、学生本人たちの奮起がなにより必要です。

大学院進学

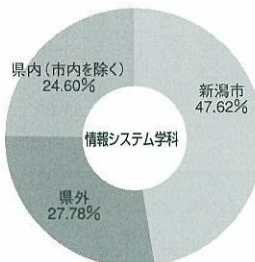
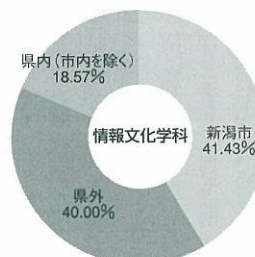
平成12年3月、情報文化学科卒業生の石田剛志君が、新潟大学大学院人文科学研究科に合格しました。

2000年3月

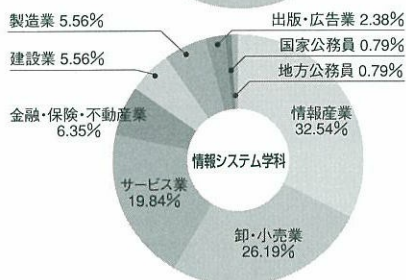
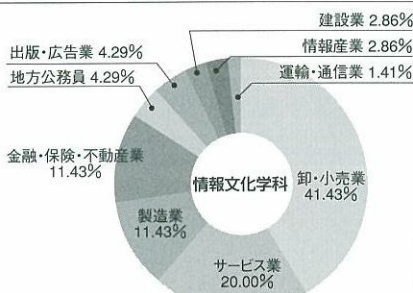
卒業生就職先企業一覧

(50音順)

業種別就職状況



就職先 (本社所在地)



アークベルグループ
アークランドサカモト(株)
(株)アイエックスナレッジ
(株)アイビー企画
豊工業(株)
アクアパーク

味の素システムテクノ(株)
アバマン情報館マシシセンター(株)
石本金属(株)
岩室村役場
(株)ヴァーナルニイガタ
(株)ウオロク

- | | | |
|---------------------|--------------------|-----------------------|
| (株)NSコンピュータサービス | (株)センチュリーハウジングシステム | 日本生命保険相互会社 |
| NSグループ愛宕商事(株) | (株)ソネット | (株)日本トラフィックコンピュータセンター |
| NSグループ(株)ウイネット | (株)ソリマチ技研 | 日本留学情報協会新潟支部 |
| NSG新潟総合学院 | (株)第一印刷所 | (株)ニユーテレス |
| (株)エフオーケーシステム | ダイエーダムスグループ | (株)ニユーメディア総研 |
| FJ Webテクノロジ(株) | 大起産業(株) | NOSA 魚沼 |
| (株)扇や商店 | (株)ダイナム | NOVAグループ |
| (株)大崎コンピュータエンジニアリング | (株)タカヨシ | (株)博進堂 |
| 大竹オール(株) | (株)武富士 | (株)ハヤマ |
| (株)大谷商会 | (株)田代 | (株)原信 |
| (株)大橋製作所不動産部 | (株)田村商店 | (株)PA |
| オギ医理科商事(株) | 中央出版(株) | (株)BSNアイネット |
| (株)カウベルエンジニアリング | 東京アフリケーションシステム(株) | (株)日立ビルシステム |
| (株)学研GIRC | 東芝情報システム(株) | (株)ビット・エイ |
| カネ美食品(株) | 東テク(株) | (株)ひらせいホームセンター |
| (株)キュービット | 東洋羽毛工業(株) | (株)ファイブアックス |
| 協栄信用組合 | 東洋熱工業(株) | (株)フォーラムエンジニアリング |
| (株)熊合組 | (株)トータルフロンティアサービス | フジナル(株) |
| (株)グレイフストーン | (株)トップカルチャー | (株)フクザワコーポレーション |
| (株)京王S | とやの中央病院 | (株)富士通新潟システムズ |
| (株)コジマ | 外山産業(株) | 藤屋段ボール(株) |
| コナNC(株) | トヨタ部品新潟共販(株) | プリジストンタイヤ新潟販売(株) |
| (株)コメリ | 長岡信用金庫 | (株)プレスメディア |
| (株)コンピュータシティー | (株)ナカムラ | プロミス(株) |
| 佐和田町役場 | (株)ナルス | (株)ベンチャーセーフネット |
| (株)サンケイ情報ファシリティー | 新潟運輸(株) | (株)北部 |
| (株)サンテック | (株)新潟学習社 | 北部健勝学園 |
| 三和薬品(株) | 新潟県警 | ボスシステム(株) |
| (株)シアンズ | (株)新潟ケンベイ | (株)ホテル泉慶 |
| 自衛隊 | 新潟県労働金庫 | (株)松村歯科 |
| 資生堂エステティックサロン | (株)新潟シエル | (株)マルイ |
| 下田村農業協同組合 | 新潟酒販(株) | (株)マルシヤン |
| (株)芝通 | 新潟セキスイハイム(株) | 丸善システムサービス(株) |
| 清水商事(株) | 新潟ゼロックス(株) | 丸福証券(株) |
| ジャスコ(株) | 新潟潜水興業(株) | (株)みかづき |
| (株)ジャパンネット | 新潟総合警備保障(株) | (株)マイクロ情報サービス |
| (株)商工ファンド | 新潟中央青果(株) | (株)水澤家具 |
| (株)乗馬クラブフレイン | 新潟トヨペット(株) | 三井企画(株) |
| 白根市農業協同組合 | 新潟日本電気ソフトウェア(株) | (有)みやけ食品 |
| (株)上毛新聞社 | 新潟フジカラー | (株)吉運堂 |
| シンキ(株) | 新潟リコー(株) | (株)ヨドバシカメラ |
| 星光薬品(株) | 新潟冷蔵(株) | (株)ライオン堂 |
| 積水ハウス(株) | (株)ニッシン | リスロン(株) |
| (株)関本製麺 | 日生不動産(株) | YMMインターナショナル |
| セコム上信越(株) | | (株)渡商 |

はじまりました。新カリキュラム

学習指導委員長 赤木 敏子



本年度入学した1年次生から新しいカリキュラムになりました。

情報文化学科では、国際化と情報化の時代に要求されるコミュニケーションをはかるための英語CEP: Communicative English Program 1年次前・後期が必修になりました。また1年次後期からは英語、ロシア語、中国語、韓国語の中から1言語を選んで学び、その地域と日本との関わりやその地域をはじめとする各々の異文化を理解するようカリキュラムを構成しました。さらに、各地域の文化を実体験出来る留学制度を導入しました。希望する学生は、2年次後期に5ヶ月留学しても在学期間が4年で卒業できる制度です。ただし、英語圏のアメリカについては、2年次夏期休暇中に6週間留学の予定です。

情報システム学科では、情報システムの企画・設計・開発・運用に携わったり、あるいは情報を

新潟国際情報大学ホームページデザイン募集

活用することでこれからの情報化社会の建設に貢献出来るようカリキュラムを充実しました。また、情報化の進んでいる北米社会を実体験し、英語によるコミュニケーション能力を高めるため、北米の大学へ2年次夏期休暇中に4週間留学する制度を設けました。留学先の大学はいつでも、本大学の教育方針を理解し、充実した留学プログラムを検討して下さっています。折角のチャンスですから、積極的に参加して下さい。なお、いずれの学科の留学も、2年次以上の学生は参加することが出来ますので、ゼミの担当の先生に相談して下さい。

広報委員会では、本学のホームページデザインを変更することを考えました。今回は大学の顔ともいえるトップページのデザインの募集を行います。現在のページにとらわれず、外部にアピールするデザインを希望して下さい。募集対象／本学在学学生、教職員及び卒業生
賞 金／優秀賞3万円(1点)
佳 作1万円(2点)

優秀賞は本学ホームページのデザインとして採用します。入賞者はホームページ、広報誌などで発表します。審査はホームページデザイン審査委員会で行います。
応募方法／以下のどちらかの方法で応募してください。

1. 各自のディレクトリにHTMLファイルを作成しURLを連絡する。

2. デザインを紙に書いて応募する。

応募期限／平成12年9月29日(金)

応募問い合わせ先／新潟国際情報大学

広報委員会 kawahara@nui.ac.jp

※詳細は「うち」

<http://www.nuis.ac.jp/kouhou/wwwpage.html>

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 高木 義和

広報という言葉は英語のPublic Relationsに由来しています。PRと略され企業の広告宣伝や、事柄を訴えるといった意味によく使用されます。この広報という言葉は戦後GHQが都道府県にPR担当部門の設置を指示したことに始まるといわれ、比較的新しい概念です。本来のPR活動とは、情報のやり取りを通じて、人と人、人と企業や組織、企業や組織と社会などとの間に良い関係を築くことと言えるようです。PRという言葉から連想される、テレビや雑誌などのマスコミを使った宣伝活動とは少し内容が異なっています。PR活動の手段として必要な情報という言葉自体も、戦前は諜報など戦争に深く関係した言葉で、現在使用される意味を持つようになったのはPRと同様に戦後のことです。広報という言葉が強引に日本に導入された歴史を考えれば、広報の本来の意味が定着していないのも当然かもしれません。広報委員会ではPR本来の意味を良く理解し、大量の印刷物を作るだけではなく、大学と学生、父兄、教職員の間、そして大学と高等学校、企業、社会の間に良い関係を築くことをめざした活動をしたと考えています。情報の媒体として、この国際・情報や毎年作成する大学案内は重要なものですが、それ以外に、インターネットも広報活動にとって今後ますます重要性が高くなると考えられます。インターネットは全学的に利用環境が整っており、技術的蓄積もあることから、広報活動におけるインターネットの積極的な活用を今後検討したいと考えています。

参考資料(広報の基礎)・小林ら、1996)